

# くま小通信

第13号学芸会特別号 令和4年11月14日

名古屋市立熊の前小学校

名古屋市緑区亀が岡一丁目901番地

TEL: 052-878-1600

http://www.kumanomae-e.nagoya-c.ed.jp



各記事と「学校教育目標」(第1号参照)の関連を、次のように文末に示しています。

(1) 基礎基本を身に付け、自ら学ぶ力を備えた子の育成 → 【①自ら学ぶ力】

(2) 思いやりの心・社会の一員としての自覚を備えた子の育成 → 【②思いやり・社会性】

(3) 生涯にわたって健康に過ごすための心身を備えた子の育成 → 【③心身の健康】

## 〔6年生：人間になりたがった猫〕

最終日、満を持して行われた6年生の発表。全員が自分の役柄の性格や劇中での役割を理解し、工夫して演じることで、主人公ライオネルとの関わりを通して変容していく人々の心情を見事に表現していました。「やっぱり6年生はすごい！」観客にそう感じさせる圧巻の20分でした。



3年ぶりとなる学芸会が、11月8日(火)～11日(金)に行われました。多くの保護者の皆様にご来校いただき、ありがとうございます。本番に至るまで、各学級で熱心な取り組みが行われてきました。学芸会を通して、どの子も、大きく成長しました。ご家庭でのお子さんからのお話や、本番当日の実際に演じる姿を通して、保護者の皆様にも、お子さんの成長が伝わったのではないかと思います。どの学年の子も、本当によく頑張りました。子どもたちから、多くの感動をもらいました。今回は、「学芸会特別号」として、学芸会の様子についてお伝えします。

## 3年ぶりの学芸会開催

## 〔5年生：魔法をすてたマジョリン〕

どの学級も、「さすが高学年！」という迫真の演技でした。最後の「心から心へ」の全員合唱で、会場全体に感動の渦が巻き起こりました。



## 〔4年生：妖怪学校〕

人間と妖怪とが、次第に心を通わせていく様子を、コミカルに演じました。YouTuberが登場するあたりに、「令和の学芸会」の形を見ました。



## 〔3年生：西遊記〕

歌を中心にストーリーが進む劇だということもあり、終始楽しい雰囲気でした。みんな、元気に堂々とせりふを言う姿が印象的でした。



## 〔2年生：はだかの王様〕

劇中歌「わたしには見えない」が何度も繰り返されるところがおもしろい劇でした。2年生のかわいらしい演技が魅力的でした。



## 〔1年生：11ぴきのねこ〕

猫耳としっぽを付けた1年生が、体全体を使って元気にかわいらしく演じたり歌ったりする姿に、観客みんなが心を奪われてしまいました。



## 〔たいよう・さくら：Wももたろう〕

「桃太郎」「桃姫」とユニークな仲間たちとのやり取りが楽しい劇でした。「茶色の小瓶」の演奏も、とっても上手でした。



# 熊の前小は、“やる” 選択

近隣だけでなく、市内全体の小学校を見ても、学芸会を実施する学校は、少数派となっています。学芸会は、学習指導要領の「特別活動」における「文化的行事」に位置付けられてはいますが、実施を義務付けられているものではないので、「やってもいいし、やらなくてもいい」ものです。学芸会を実施するにあたっては、台本の作成、背景や大道具・小道具類の作成、舞台設営、音響の準備や照明の計画、そして演技指導等、準備や運営に掛かる負担はかなり大きいものがあります。また、令和2年度の学習指導要領の改訂による学習内容の増加に対応する授業時数確保や、コロナ禍における感染症対策との両立の難しさが大きな障壁となり、学芸会を“やめる” 選択をする学校は少なくありません。

しかし、今年度、熊の前小学校は、学芸会を“やる” 選択をしました。その理由の一つは、保護者の皆さんや子どもたちからの「学芸会が見たい」「学芸会がしたい」という声の大きさがあります。しかし、それだけではありません。もう一つの大きな理由は、学芸会には、大きな教育的効果があるからです。学芸会がなければ、多くの観客の前で練習の成果を表現したり発表したりする経験は、ほとんどの子がすることはできません。学芸会を終えた子どもたちに感想を聞くと、「緊張したけど楽しかった」「失敗したけど頑張れた」と、自信を深めた様子が見られます。このような経験の積み重ねが、「次も、緊張する場面でも、きっと頑張れる」という自信につながっていくのだと思います。また、「一つの劇をみんなで作り上げていく」という共通目標をもちながら練習に取り組んでいく中で、集団の一員としての自覚を高めるとともに、これまでは気付かなかった自他のよさを知ることができ、子どもたち同士の心つながりが、より一層深く、強固になります。それを裏付けるように、学芸会を終えた子どもたちからは、決まって「もう、このメンバーで演じることができないのは寂しい」という言葉が聞かれます。さらに、異学年の発表を見合うことにも、大きな価値があります。低学年の児童は、高学年の児童の演技を見て、その姿にあこがれ、それが自分自身のロールモデルになります。高学年の児童は、低学年の児童の演技を見て、「かわいいな、自分にもそんな時代があったな」と、年下の子に優しくする気持ちを高めたり自身の成長を自覚したりします。

以上のような経験は、学芸会以外の教育活動や学校行事では、味わわせることが難しいものです。「何にも代えがたい経験を子どもたちに」という思いで、熊の前小学校は、“やる” 選択をしたのです。

コロナ禍での学芸会開催は、非常に難しい部分がたくさんありました。我々教員の負担も、想像以上に大きいものでした。しかし、学芸会の練習に一生懸命取り組んだり、楽しそうに演じたりする子どもたちの姿や、観覧する保護者の皆様の笑顔を見て、やはり教育的効果が高い取組だったと感じています。

2年後の学芸会については、保護者アンケートの結果や校内の反省を基に、開催可否を含めて、改めて検討することになります。保護者アンケートは、あいあいシステムにて18日（金）までの回答期限となっておりますので、多くのお声をお寄せください。

## 先生たちも、頑張りました！

学芸会では、子どもたちが本当によく頑張りました。

でも、頑張ったのは、子どもたちだけではありません。先生たちも、とっても頑張りました。夏休み前から準備を進め、特に2学期に入ってから、多くの先生が夜遅くまで大道具作りや衣装作りをしていました。感染症対策として学級ごとの演技としたため、従前の学年を2グループに分けていたころの方法では対応できない部分も多く、「行事を復活させた」というより、「全く新しい行事をゼロから作り上げた」という印象です。手前みそになりますが、今回の学芸会が大成功に終わった陰には、先生たちの多大な労力と努力があったことも、ここに明記しておきたいと思います。

子どもたちにも、先生たちにも、改めて大きな拍手を！

## 保護者の皆様のご協力に感謝

保護者の皆様には、感染症対策のため、観覧数の制限、一方通行での入退場、迅速な入替等、様々なご協力をいただきました。特に、演技後はその余韻を楽しむ余地もなくご移動を促してしまい、心苦しく感じました。皆様のご協力により、学芸会をスムーズに進行することができました。ありがとうございました。皆様が、普段から子どもたちを温かく見守ってくださっていること、ルールやマナーを守っていただけるという信頼感が、学校運営の原動力となっています。今後とも、ご協力のほどよろしく願いいたします。

## YouTube 動画 11月27日（日）まで限定配信

当日参観できなかった保護者の方や、ご親族の方向けに、学芸会の動画を YouTube にて配信します。16日（水）に、右のようなカードをお子さんに配付します。お手持ちのスマートフォンやタブレットで QR コードを読み取るか、インターネットブラウザに URL を入力すると、当該学級の YouTube 動画ページにアクセスできます。

※ 動画の公開は、11月27日（日）までです。

※ 動画は、指定の URL を知っている人にしか見ることができない「限定公開」です。お子さんに配付したカードの情報は、そのご家族・ご親族以外には提供しないようお願いいたします。

※ 不正に動画をダウンロードしたり、それをインターネット上にアップロードしたりすることは絶対にやめてください。

※ 動画は、体育館後方からの定点カメラで撮影したものです。画質や音質・音量等、不十分な点はあると思いますが、ご容赦ください。

令和4年度 熊の前小学校 学芸会動画

〇年〇組

URL: <https://youtu.be.....>

QR コード

